国語（現代文）　東京大学　（前期・理科）　1/3

＜総括＞

文科　出題数	現代文２題･古文１題･漢文１題	試験時間１５０分
理科　出題数	現代文１題･古文１題･漢文１題	試験時間１００分

生命は秩序と無秩序とのはざまで生きる存在であるという前提に立って、科学のあり方を論じた文章。要旨は昨年よりもつかみにくかったであろう。設問数は、昨年度同様、全体で五つであった。設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が必要とされている。

＜本文分析＞

大問番号	第一問
出　典（作者）	中屋敷均「科学と非科学のはざまで」（講談社発行の雑誌、『本』2018 年７月号に掲載）
頻出度合・的中等	入試で出題されるのは稀な筆者である。
分　量前年比較	**分量**（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）　約 3500 字。昨年よりも約 700 字増。
難　易前年比較	**難易**（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
第一問	科学論	(一)	記述	やや難	傍線部前後の文脈に即して、「世界」と「物質」、「生命」との関係を考えて、説明する。
		(二)	記述	標準	生命の「複雑で動的な」ありようを、「分子」の偶発性や「進化」の方向性に即して説明する。
		(三)	記述	標準	傍線部の「福音」という比喩を、「科学」の営みが人類にもたらすことに即して説明する。
		(四)	記述	やや難	本文で述べられている「生命」のあり方を踏まえつつ、人間の知的な営みにとって「分からないこと」が持つ意義を説明する。
		(五)	記述	標準	五年連続で、三問の出題だった。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかり把握できるようにしたい。
書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

© 河合塾　2019 年

国語（古文）　東京大学　（前期・理科）　2/3

＜総括＞

文科　出題数	現代文２題･古文１題･漢文１題	試験時間１５０分
理科　出題数	現代文１題･古文１題･漢文１題	試験時間１００分

例年とは異なるジャンルからの出題だったが、設問はオーソドックスなものであった。

＜本文分析＞

大問番号	第二問
出　典（作者）	『誹諧世説』（闌更編）
頻出度合・的中等	稀
分　量前年比較	**分量**（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）　約 990 字。昨年より約 20 字増。
難　易前年比較	**難易**（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
第二問（文科）	俳諧	（一）			
		ア	記述	易	現代語訳（「うるさく」の語義に注意）。
		イ	記述	易	現代語訳（「程」の語義に注意）。
		カ	記述	やや易	現代語訳（「あらはれ」の語義に注意）。
		（二）	記述	やや易	現代語訳（言葉を補って訳す）。
		（三）	記述	やや易	内容説明。
		（四）	記述	やや易	内容説明。
		（五）	記述	標準	内容説明（第一段落に注目する）。
第二問（理科）	俳諧	（一）			
		ア	記述	易	現代語訳（「うるさく」の語義に注意）。
		イ	記述	易	現代語訳（「程」の語義に注意）。
		オ	記述	やや易	現代語訳（「あらはれ」の語義に注意）。
		（二）	記述	やや易	現代語訳（言葉を補って訳す）。
		（三）	記述	やや易	内容説明。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習や和歌の学習も必要。

© 河合塾　2019 年

国語（漢文）　東京大学　（前期・理科）　3/3

＜総括＞

文科　出題数	現代文２題･古文１題･漢文１題	試験時間１５０分
理科　出題数	現代文１題･古文１題･漢文１題	試験時間１００分

例年通り文理共通問題であり、昨年同様散文であった。昨年に続き硬質な論説文が出題された。設問数についても昨年同様に枝問を含めて文科６題、理科５題であった。また今年は、設問に関わる部分で送り仮名の省略が昨年の１箇所から６箇所に増えた。例年通り、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

＜本文分析＞

大問番号	第三問
出　典 （作者）	黄宗羲『明夷待訪録』
頻出度合 ・的中等	稀。
分　量 前年比較	**分量**（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） 192 字。昨年は 219 字（昨年より 27 字減）。
難　易 前年比較	**難易**（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）
第三問 （文科）	論説	（一）			
		a	記述	やや難	語句の意味。「僅」を「わづかに」と読むことに注意する。
		d	記述	標準	語句の意味。「草野」の意味に注意する。
		e	記述	標準	語句の意味。「与」を「あづかる」と読むことに注意する。
		（二）	記述	標準	現代語訳。「不敢～」「自」「為」に注意する。
		（三）	記述	やや難	内容説明。「其本領」の指す内容を、文脈にあわせて的確に捉える。
		（四）	記述	やや難	内容説明。「亦」「之」に注意し、学校には本来「養士」「公」の二つの役割があるとしていることを踏まえる。
第三問 （理科）	論説	（一）			
		a	記述	やや難	語句の意味。「僅」を「わづかに」と読むことに注意する。
		c	記述	標準	語句の意味。「草野」の意味に注意する。
		d	記述	標準	語句の意味。「与」を「あづかる」と読むことに注意する。
		（二）	記述	標準	現代語訳。「不敢～」「自」「為」に注意する。
		（三）	記述	やや難	内容説明。「亦」「之」に注意し、学校には本来「養士」「公」の二つの役割があるとしていることを踏まえる。

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

© 河合塾　2019 年